

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

**報告者氏名:** 山口典子      **所属:** 栃木県立足利特別支援学校      **記録日:** 2017年 2月25日  
**キーワード:** 観察、実態把握、コミュニケーション、OAK

## 【対象児の情報】

・**学年** 小学部2年(8歳)

・**障害名**

多発奇形症候群及び滑脳症

・**障害と困難の内容**

気管切開をしており、酸素を常時吸入している。定期的な吸引が必要である。胃ろうによる栄養注入。表情の変化はほとんどみられない。教師の働きかけや感覚刺激等に対して目や口、腕を動かす反応がみられるが、機能や確実性が曖昧である。

家庭の都合により6月から週3回のみ登校。7月～9月は隣接するあしかがの森足利病院に入所。



定位反応	○	絵本の読み聞かせをすると、絵本に視線を向けながら口を動かす。
探索反応	○	声をかけられた方向に視線を向ける。
快・不快	◎	(快) ジャムをなめるときに、舌を出して待つ。 (不快) 吸引器の稼働音を聞くと緊張する。
要求・拒否	○	(要求) 車椅子に移乗し、動き出さないでいると頭を動かす。 (拒否) 鼻腔の吸引で頭を後ろにそらして拒否する。
注意喚起	?	近くにいる人に手を伸ばして存在を確認する。
有意語	—	発声なし。

◎再現性あり、客観的な説明が可能

○主観的にはOK、実態の共有には課題

△芽生え、不安定

—できない

?わからない

## 【活動目的】

・**当初のねらい**

対象児は、目や口、腕の動きはあるものの、表情の変化が少なく、子どもからの発信の読み取りや、やりとりを深めていくための働きかけが課題だった。また、様々な学習の積み重ねでいろいろな表情を見せてくれるようになることが保護者の願いでもあった。そこで、**身体の動きを観察し、子どもからの発信や刺激への反応を再分析すること、その動きをやりとりにつなげていくこと**を目的とした。

<学習目標>

- 1 表情や身体の動きを観察しながら、児童の好む働きかけや教材を再分析する。
- 2 人とのかかわりや好きな遊びに対する反応を観察し、特定の人(担任教員や母親)の働きかけに対して、視線や身体の動きによる反応を引き出す。

・**実施期間** 2016年5月～12月

・**実施者** ①高梨清良 ②廣瀬周平 ③山口典子

・**実施者と対象児の関係** ①学級担任(共同研究者) ②学級副担任 ③報告者

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

#### 1 身体の動き

- ・肘の屈伸が可能で、腕を伸ばして意図的に自分のほおや口に触れようとする動きがみられる。
- ・表情の変化はほとんどみられないが、教師の働きかけや感覚刺激に対して目や口、腕を動かす反応がみられる。
- ・担任が側で話しかけると、太ももに手を載せることがある。

#### 2 コミュニケーション

- ・特定の人からの働きかけを区別し、意識しているのか判断が難しいが、担任の言葉かけにより目を動かしたり、タイミング良く口を開けたりすることがある。
- ・抱っこや揺さぶり等で身体の力が抜け、心地よく受け入れている様子がみられる。
- ・音楽や絵本の読み聞かせの活動で、身体の動きを止めて視線を向けるなどの反応がみられることがある。
- ・特に好んでいる絵本の読み聞かせについては、活動の開始や絵本のタイトルを伝えたと、口を開ける様子がみられる。また、読み聞かせの間があくと顔を上げて様子を伺う（催促する？）ことがある。
- ・シャボン玉遊びで中断すると頭をヘッドレストにぶつける行動（要求？）がみられた。
- ・活動の途中で拒否的な反応と思われる歯ぎしりをすることがある。

### 場面と身体の動きの整理

どのような場面でどんな動きがみられるのか、またどんななかかわりや刺激を好むのかさらに観察した。その中で、身体の動きに関して、学習活動や刺激に対していつもみられる動きと、場面やかかわる人、働きかけ方によって、出現が変化するとと思われる動きがあることが観察された。また、かかわりや刺激に対して、それまでの身体の動きが逆に減る場面もみられた。条件によって変化する身体の動きについては、言葉かけやスキンシップ、快刺激の繰り返し等の適切なフィードバックを通して確実性が増すことで、コミュニケーションが深められるのではないかと考えた。そこで、子どもの反応を「動きが増える」「一部増える」「動きが減る」という視点から場面と身体の動きを整理してみた。

身体の動きが増える	一部増える	動きが減る
<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭をなでると<u>首を伸ばす</u></li> <li>・口の体操をすると<u>舌を出す</u></li> <li>・足や腕の体操をすると<u>歯ぎしりする</u></li> <li>・車椅子に乗ると<u>頭を左右に振る</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が言葉かけすると<u>口や目を動かす</u></li> <li>・教師が手を握ると<u>手首をひねる</u></li> <li>・教師がそばを離れると<u>目を動かす</u></li> <li>・絵本やおもちゃをを見せると<u>目を動かす</u></li> <li>・絵本を提示すると<u>口を開ける</u></li> <li>・絵本読みを中断すると<u>顔を上げる</u></li> <li>・ジャムを食べることを伝えたと<u>舌を出す</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がそばに来ると<u>動きが止まる</u></li> <li>・担任が抱っこをすると<u>緊張が緩む</u></li> <li>・髪をとかすと<u>じっとする</u></li> <li>・かかわりの少ない人に声をかけられると<u>身体に力が入る</u></li> <li>・絵本を読み始めると<u>動きが止まる</u></li> </ul>

## チェックポイント

教師の言葉かけや、好きな活動である絵本の読み聞かせの場面で、特に目や口、頭の動きがみられた。コミュニケーションとして再現性があるか、またどのような機能なのか、さらに分析することにした。

### ・活動の具体的内容と対象児の変化

#### 1 言葉かけやスキンシップ

観察① 担任の言葉かけにより目を動かしたり口を開けたりする。

仮説① 担任の声を聞き分けているのではないか。

快刺激に対して口を開けるのではないか。

活動① 教員間や病棟スタッフの言葉かけに対する反応の違いを観察する。

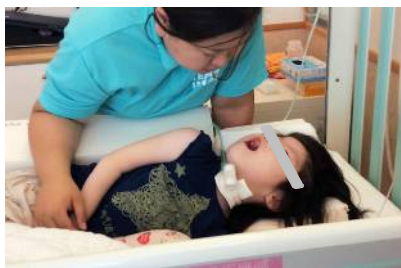
## 手続き

ア) 担任、副担任、他の教師（報告者やグループ主任）、病棟スタッフ（看護師）の4者について言葉かけに対する反応を動画撮影する。教師についてはベッドサイドで立つ位置、呼名と挨拶の言葉かけ、スキンシップ（頭をなでる）の手順を統一し、1分間観察する。

イ) 病棟スタッフに対する反応については、午前中1時間、午後1時間据え置きで動画撮影し、ケア等のかかわり場面を接近や言葉かけから1分間抽出する。

ウ) ア、イの動画について、視線（相手方向への動き）、頭、口、手の動きを観察する。

エ) ウの動きについて、OAKモーションヒストリーで可視化する。



- ・担任や副担任が登校時に言葉をかけたり呼名したりすると、口を開ける、視線を向ける、腕を上げるなどの身体の動きが見られた。
- ・かかわりの少ない教員や、医療的ケアを行いながら言葉かけする病棟スタッフに対しては動きがほとんどみられず、吸引器の音が聞こえると身体を緊張させる様子がみられた。
- ・後頭部や顔をなでてもらうと、体の動きが止まり気持ちよさそうな様子がみられる。何度かやりとりが続くと顔を教師の側へ向けて催促しているかのような動きがみられた。

#### 2 絵本の読み聞かせ

観察② 絵本の読み聞かせの間があくと、顔を上げて様子を伺う。

仮説② 探索行動か要求行動か？

期待をしている様子はどうかがえる。

活動② 絵本の読み聞かせについてABA分析する。

手続き

- ア)「絵本の読み聞かせ」について、「介入前」「刺激あり」「刺激なし」の状態の目や口、頭部の動きを動画撮影する。
- イ)「刺激あり」「刺激なし」を30秒ごとに繰り返し、口の動きと頭の動きを観察する。



- 絵本を読むことを伝えると、口を開けたり頭を動かしたりした。
- 絵本を提示すると、目が動き、視線が向く様子がみられた。
- 読み聞かせを中断すると、顔を上げる動きがみられた。
- 読み聞かせを再開すると頭の動きが止まり、じっと聞いていた。


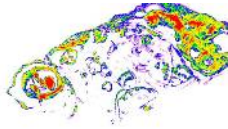
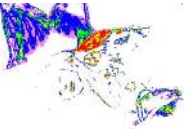
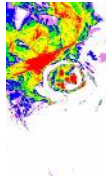
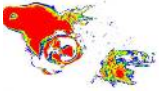

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき



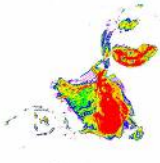
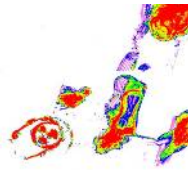
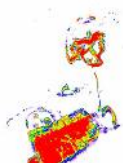


- ①担任や副担任といったかかわりの多い教員の言葉かけと、他の教員や病棟スタッフでは、身体の動きに違いがみられた。担任等の言葉かけやスキンシップに対して、「気づき」や「受け入れ」を身体の動きで発信しているのではないかと。
- ②絵本の読み聞かせについて、活動開始の言葉かけや中断時に顔を上げて周囲を伺う様子がみられた。「探索」あるいは「要求行動」として捉えられるか判断は難しいが、児童の期待感の表れとして受け止められるのではないかと。

・エビデンス(具体的数値など)


- ①1日の最初のかかわりの言葉かけに対する反応をビデオ撮影し、OAKによる分析を行った。


担任の言葉かけ	介入なし(15秒)	呼名(15秒)	言葉かけ(15秒)	頭をなでる(15秒)
				
 OAK Cam	• 全体的な動き	• 手の動き • 目と口の動きは減る	• 目と口の動き	• 口と手の動き





②絵本の読み聞かせをビデオ撮影し、読み聞かせと中断したときの身体の動きをOAKで分析した。

絵本読み聞かせ	言葉かけ	読み聞かせ(30秒)	中断(30秒)	再開(30秒)
				
 	・目と口の動き	・動きが減る	・目と口の動き ・頭の動き	・動きが減る

- ・担任の呼名や絵本の読み聞かせで動きの減少が観察された。これまで目や口、手、顔など、「動」の反応に注目しがちだった。刺激を受け止める「気づき」や「構え」など、動きの止まる「静」の反応を発信として丁寧に捉えていく必要がある。
- ・絵本の読み聞かせ中断時の頭の動きについては、対象児にかかわる教員間で解釈が分かれた。

 絵本は大好きな活動だし、「もっと読んで」という要求行動と考えてよいと思う。  
A 中断して、「顔があがったら読みを再開する」ことを繰り返して強化できれば、発信として定着を図ってみてはどうか？

 絵本の要素はもちろん大きいけれど、語りかける声とか、教員のかかわりそのものの心地よさもある。声の確認、存在の確認など、探索行動として捉える段階ではないか。  
B

  場面を再現してみよう。ロールプレイも有効？  
  どんな動きがどんなタイミングで？ 動きの変化は？ 増えた？ 減った？  
「動き」「場面」「どう返したか」「その後の変化」に注目して観察・情報共有  
情報の共有 していこう。

ビデオ分析、反応の読み取り方の難しさを改めて感じたが、ロールプレイやケース会議などを通して、教員間で観察ポイントなど情報共有ができた。まずは動きの変化を丁寧に捉え、さらに引き出していけるようにしたい。

## 教員の変容

- 実践を通して、教員の観察の視点やかかわりに変容がみられた。

内容	実践前	実践後
<p>観察場面</p> <p>*どのような場面で</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な学習活動やかかわりなど、刺激に対する反応を読み取ることがほとんどだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>刺激を中断したときや、教員が側から離れたときなど、介入のない状態の様子を観察するようになった。</li> </ul>
<p>身体の動きの観察 反応の聞き取り</p> <p>*どのように観察して</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口や腕の動きを中心に、動きがある部位に意識が向いていた。</li> <li>心地よいこと、反応の出やすい刺激を続けて行い、確認していくかかわりが多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目線、口、舌、腕の動かし方など観察する身体の部位が増えた。</li> <li>身体の動きがないときも観察して待つようにし、「動」だけでなく動きが減少する「静」の場面に注目する機会が増えた。</li> <li>刺激を連続せず、刺激の受け止め、反応を観察・確認しじっくり待つことで、子どもが構えたり、探索したりできるよう、適切な間の配慮ができるようになった。</li> </ul>
<p>分析（解釈と対応）</p> <p>*どう解釈するか</p> <p>*どう返すか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の動きに対して、どんな機能なのか意味づけし、主観的な仮説になってしまうことがあった。</li> <li>教師の受け取り方で子どもに同意を求めるような言葉かけをしてしまうことがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きの機能の解釈や意味づけにはこだわらず、身体の動き、動きの減少を含めて、すべて子どもからの発信であると捉えることを出発点とした。</li> <li>「子どもが刺激を受け止めていること」「発信していること」が教員に伝わっていることを、意識的に言語化して返すようになった。</li> <li>子どもの反応をじっくりと待ち、子どもの様子や発信を観察しながら次の言葉かけを選び、やりとりを工夫するようになった。</li> </ul>
<p>チームの情報共有 （解釈の違い） （考え方）</p> <p>*解釈をどのように つなげるか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような刺激に対して、どんな反応がみられたかについての報告が中心だった。</li> <li>解釈が異なるときはディスカッションをするものの、さらに観察していくことを確認し合うにとどまっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かかわる教員間で場面を再現し、ロールプレイを行って検証する機会をもつようにした。</li> <li>「場面－反応－解釈」だけでなく、解釈が異なる場合も、それぞれの教員が「子どもにどう返したか」「その後どのような反応がみられたか」について情報交換を行うことで、「どんな視点で返したらよいか」という観点で共通理解を図れるようになった。</li> </ul>



## ・考察

- ・担任や副担任は対象児にとって安心できる存在であり、身体の動きで「構え」や「心地よさ」など気持ちを伝えようとしている。**かかわり方や教材の工夫など環境を整え、子どもの安心感を高めることが、コミュニケーションを深めることにつながる。**かかわりを受け止める反応や、探索行動に結びつく身体の動きに対して、教員が言葉かけやスキンシップ、快刺激の繰り返し等適切なフィードバックを行えるよう、**子どもからの発信を「聞く力」「確認の仕方（返し方）」の向上が求められる。**
- ・子どもの発信（身体の動き）を受け止めて、どう返していくかについては、その日の子どもの体調や、学習の活動時間・試行回数等の要素、また、教員の普段のやりとりの様子やパーソナリティ、経験値などによっても変わってくるものと思われる。一定の言葉かけや手順などを申し合わせることはしないが、**「子どもが刺激やかかわりを受け止めていること」「何かを発信していること」が教員に伝わっていることを返したり、発信を基にさらに子どもに聞いていく、**というやりとりにつなげていったりすることについて共通理解を図り、子どもが発信できる、より発信しやすい環境の調整に努めたい。
- ・発信の気づきや、適切なフィードバックとその後の子どもの様子など、子どもにかかわる教員が場面を再現したロールプレイやケース会議を通して、チームとして情報を共有するとともに、保護者とも観察ポイントなど共通理解を図り、「気づきの体験」「気づきの発見」を家庭とも連携して積み重ねていけるとよい。

## ・その他エピソード(画像などを含めて)

### 教員によるロールプレイより

- ・絵本の読み聞かせにおける身体の動きの分析について、教員間で場面を再現し、ロールプレイを行った際に、読み聞かせを中断してからどのようなタイミングで顔を上げているのか、という点で解釈が分かれ、体調や時間の経過による身体の動きも考慮する必要があることなど、意見を交わす機会となった。また、読み聞かせだけでなく、いろいろな身体の動きについても、手を上げる角度や口を開ける大きさ、パクパクの回数、頭を振る激しさなど、教員間で体験や捉え方に違いもあり、手、口、頭の動きでひとくくりにしてきたことの細分化の再確認になった。



声が聞こえなくなって、あれ?と思った…

(中断後すぐ) → 探索行動?

放っておかれてるのかな? もっと読んで、何かして!

(中断後間を置いてから) → 要求かも!?

解釈の違い・難しさ



解釈にこだわらない!  
すべて子どもからの発信



動きの増減とタイミングのチェック  
子どもへの返し方

もう絵本飽きた…  
(もぞもぞ)

たんが出したい  
(ばたばた)

## ☆ロールプレイの感想

子ども側になってみると、相手（目の前）の存在を意識し、受け入れる（待つ）ことをしているんだなと感じた。子どもの動きをまねしてみると、もしかしたら…と子どもの気持ちを予測することが改めてできた。 【担任】

子どもの立場になって気持ちを考えられた。こんな声かけをしたらどう思うのかな、こんな動きをしたときはどんな声かけをするといいのかな、とか。もっともっと丁寧にかかわるようになっていきたい。 【副担任】

## ☆チームで取り組むために

- 対象児を含む2名学級に担任、副担任がつく指導体制の下、固定の担当制にせず、午前・午後の学習を1週間単位でローテーションにし、かかわるようにしている。学習内容についても分担せず、同じ内容に複数教員で取り組むようにした。
- 教員間で情報を共有する際に、身体の動きの様子や場面、直前の刺激について主観や曖昧さが介入しないよう、気になる動きなど「気づき」に関して「さかのぼりビデオ」などを活用して、口頭でのやりとりだけでなく、できるだけ画像を基に分析するようにした。
- 分析や共有のプロセスを視覚化し、また記録に残して振り返られるよう、マインドマップなども作成しながら検討した。
- 身体の動きの機能分析やどう解釈するかについては意見が分かれることがあり、また「気づき」そのものがさらに観察を続けていくと過剰な意味づけだったケースもある。その場合も可能性や仮説として尊重し合うとともに、その動きに対して教員がどう返したらよいか、という視点で共通理解を図るように心がけた。



さかのぼりビデオ SimpleMind

### 保護者との観察ポイントの共有

- これまでは、下校の際にその日の学習内容に触れながら、「刺激に対してこんな反応がみられた」というやりとりが中心だったが、子どもの「静」の反応や、様子を見て欲しい場面などの情報を共有するようにした。

## ☆保護者より

じっとしているときも何か伝えてくれているんですね。  
いろいろな瞬間を見ていくのって、なんだか楽しいですね。